

子どもの安心・安全を守るために必要なネットワークを作ることには

- ★NPO法人ながれやま子育てコミュニティ なごっこ
- ★流山子育てネット
- ★おおたかの森ファミリーサポートセンター

田中 由実 令和元年11月28日（木）



目次

- 自己紹介
- 流山市ってどんな街？
- 結論から先に言います！
- なごっこ・ファミサポの活動について
- 流山子育てネット設立の経緯
- ファミリー・サポート・センター事業の闇

流山市ってどんな街？

総人口 194,360人(11/1現在・年間約5000人増)

世帯数 81,664世帯

- ・近年、子育て世帯が増加しています。
- ・合計特殊出生率 1.62(全国1.44)
- ・人口増加率は2.74% (H30年度・人口増加数5074人千葉県1位)
- ・転入超過数では、2014年に全国10位にランギング
- ・保育園は認定・小規模あわせて80園以上。

結論から先に言います！（保育ソーシャルワークにおける） 実践領域のミクロ・メゾ・マクロレベルをしなやかに・つなげ・つながり・結ぶ

ソーシャル・アイ⁶⁶



活動それぞれのビジョン

★『なこっこ』
子育てを共に楽しむ・考える・助け合う

★『流山子育てネット』は・・・
どの子も見守られる街 流山

ちなみに・・・

★『子どもをみんなで育む計画
～流山市子ども・子育て支援総合計画～』

《基本理念》

子どもの最善の利益が実現され
すべての子どもが健やかに育ち
地域全体で子育てできるまち 流山

4つの孤育ての解消

なこつこのミッションは？

母親の孤独を
なくそう！

①ネットワーク作りで
孤育て解消

②たった一人の子育て
から皆で子育てへ
個育て解消

③能力を生かして
地域参加
枯育て解消

④受信から発信へ
様々な世代と繋がる
固育て解消

Nakoccoの活動 について紹介します



お産カフェ

新米ママ講座

Nakocco Baby

妊娠期



産後1~8か月



~1歳半程度



なこっこポコ

子育て力アップセミナー

防犯力アップセミナー

発達が不安
なお子さん



夫婦受講



年長児向け



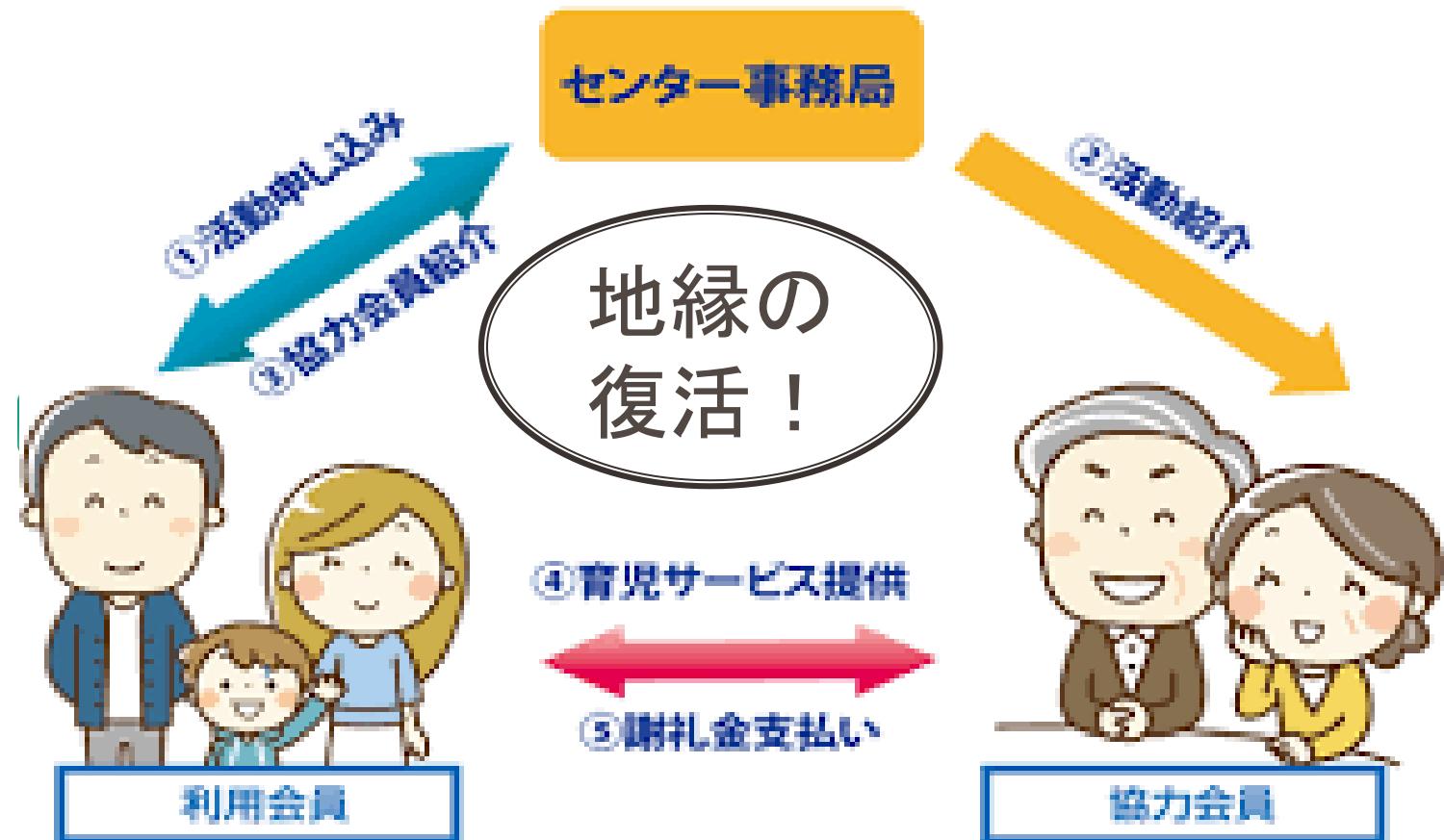
Nakoccoの活動 について紹介します



Nakocco Plus+



おおたかの森ファミリーサポートセンター



事例 1. なごっこ活動（メゾレベル・グループ活動）

«お産カフェ»

①若いが、一人目を出産後に離婚、その後再婚し二人目妊娠（一人目は元夫が親権を持つ）出産後、なごっこベビー（月1のひろば）に参加、ちょうど募集していた「子育て力アップセミナー」に夫婦そろって参加、病院か両親学級でも一緒だった別の夫婦に再会し連絡先などを交換していた。その後は順調にお友達もできたような様子であった。

«新米ママ講座»

①ここでママ友ができる人多数！何年たっても良い関係が続いているとの報告はよくあります。
②抱っこボランティアが活躍します。他人に抱かれている我が子をみて頼っていいのだと気が付く。

«なごっこポコ»発達に不安があるお子さん達のための親子サロン

お産カフェに何度か参加、妊娠の経過は順調であったが、生まれた赤ちゃんがダウン症。生まれてからもお産カフェに来るが、ベビーひろばなどには来ない。→乳児家庭全戸訪問事業での担当者は通り一遍の対応であったらしい。発達が不安なお子さん達の親子サロン「なごっこポコ」の誕生。（NPO法人 Case Japanさんとの共同事業）病院・相談・同じようなお子さんを持つ親と話しがしたい親たち。通ううちに、ボランティアが勤める施設にもつながり、また現在は当事者ボランティアとして活躍。ポコは書ききれないドラマがたくさんあります。親が安心して悩みが話せ、泣ける場所の必要性。泣けた方は、前向きになって次のステップへ進む方が多いと感じます。

事例2.友人・知人支援とファミリーサポートの闇（ミクロに近い支援）

«精神疾患を抱える母親»

ファミサポに関しては最近精神疾患の母親の登録が増えている。親や近所に頼る人がおらず、個人支援が可能なファミサポに市役所から問合せが来るが、ファミサポは第二福祉事業とはいえ、提供会員は有償ボランティアであり、ものすごく重い案件を抱えることに対し、センターとしては危機感を抱いている。⇒事例の紹介

«障害を抱える子どもの移動支援が手薄»

・特別支援学校のバスは8時～運行している場合が多いが、それだと都心へ通勤している親は仕事に行けない。

・通級（普段通っている学校を一時抜けて別の学校にある特別支援学級へ通うこと）の場合、午後に学校からの学校への移動が必要。親が仕事の時は送迎ができない。

上記、障害を抱えているお子さんの援助ができる提供会員はとても少ない。

流山子育てネット設立の経緯…（メゾからマクロへ…）

- 2013～2015年 約2年かけて 子ども・子育て総合支援計画に参画したが…。

計画名称 「子どもをみんなで育む計画」

理念 「子どもの最善の利益が実現され

すべての子どもが健やかに育ち

地域全体で子育てできるまち 流山」

- ・共働き世帯の人口増加でハード整備が急務な流山において、量の確保の話だけしていくいいの？
- ・片働き家庭の子育て支援は置き去り？
- ・誰が、子どもの育ちを保証するの？
- ・計画に魂を入れるのは誰？

2015年 シンポジウムを開催

【開催目的】

- 流山の親子に関わる子育て資源はどのようなものがあるのか？
- お互いの活動に対する理解を深める。
- 交流を促す

【成果】

- ・138名が参加
- ・寄付 10万円以上獲得
- ・隠れていた子育て資源の発掘に成功



2016年事業 2つの講演会（発達障害・オレンジリボン運動）

(2016年度) 2年目の成果 (政策提案・ロビー活動)

【成果】

- ・講師は現職の文京区区議会議員の海津敦子さん
- ・パネルディスカッションで、実際に発達障害の子を育てる当事者・活動者・保育園園長に登壇してもらった。
- ・市議会の会派を回り、講演会の出席を促した。
- ・一般も含む90人の参加があった。
- ・次の議会で、発達障害に関する質問がたくさん出た。
- ・今まで動かなかつた、当事者の陳情が通り、一歩進んだ。

2017年度 これからの子ども・子育て支援を考える代表者会議開催

【ポイント】

- ・昨年度改定のあった、児童福祉法を支援者と一緒に学ぶ
- ・0歳～小学校まで、子どもの育ちは繋がっている(切れ目がない支援)をテーマに登壇者を選定。

保健センター(母子保健)・子ども家庭課・民生委員・幼稚園・保育園・小規模保育園・学童・小学校(校長)・2つのNPO(乳幼児・障害)

①課題 ②連携 ③展望

- ・グラフィックレコーディングの手法を試み、会の一体感を得られた。

これからのお子様・子育て支援を 考える代表者会議

ーわが街における子育て支援の課題とはー



②パネルディスカッション



③質疑応答
感想



2016年改正児童福祉法と子ども・子育て支援

- 兒童福祉法
 - 教育基本法
 - 子ども育成支援法

これから 寄り添っていく支援

2016年の改正

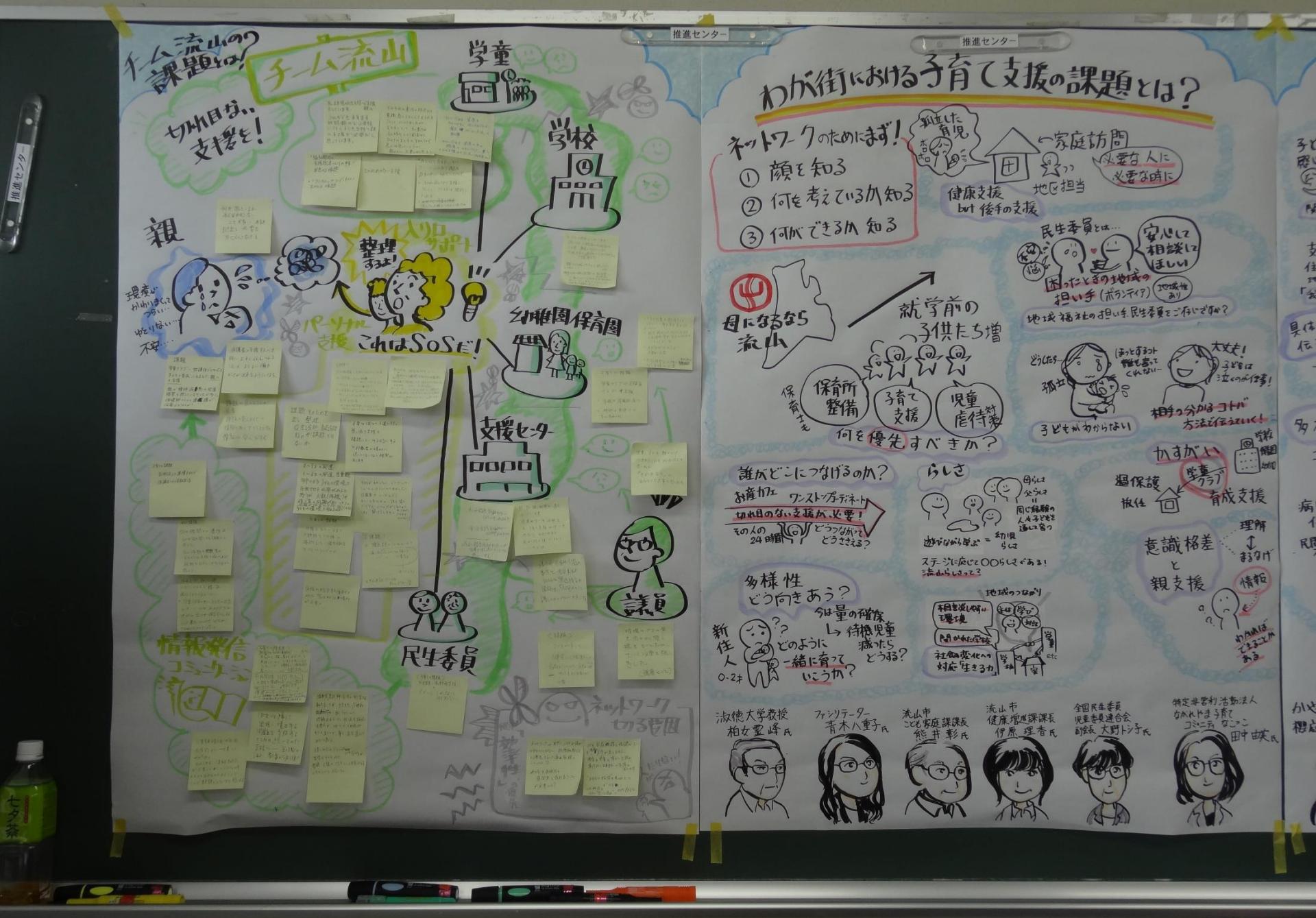
社会と子育ての 関係性

第 互助

淑德大學教授
柏女靈峰
(流山3宿(ネット
開門)先生

その課題と今後の方向

今回のイベント







流山子育てネットへの特徴「どの子も見守られる街 流山」を目指して

- 流山市子ども・子育て会議のメンバーを中心
- 正会員 32名のうち、6名が市議会議員 1名が県議会議員
- 基本手弁当（会費制 行政の関与はほぼなし ただ、計画に入っている？？）



令和2年度からの「子どもを育む計画」で子育て支援のネットワークづくりの具体的事業で、『子育てグループの支援』親同士の交流を促進します。また、子育て支援に关心のある方々へのネットワーク作りを支援します。

行政やワーカーは繋げるだけではなく、発掘し、支援し、自ら繋がっていく

★この事例が特別なことではなく、発掘していく。繋がる。（丸投げしないで～）

★その支援や後押しを、行政がすれば一番メニューを豊富にしなければならないメゾンレベルが活発化していくのではないか。

★まずは、地域で活動する人々と話をしてみてください。